

ウルトラマンオーブ
"Hope&Despair"

トライデント

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したもので
す。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を
超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

「それは、俺の人生だけじゃなく、世界までも変える出会いだつた」

ウルトラマンオーブとダンガンロンパのクロスオーバーです

ダンガンロンパ要素はキャラ以外殆ど無いです。ですのでダンガンロンパのこと全
然知らなくても楽しめるものを書けたらなと思ってたり、逆にウルトラマンのこと全然

知らない人でも楽しめるものを書けたらなとも思つてたり

残酷な描写はロンパキヤラにはあまり適応されない（本編程ではない）です

亀更新は筆者の親友。生暖かい目で彼等を見守つてくれたら幸いです

目

次

PROLOGUE

ターニングポイント

1

PROLOGUE ターニングポイント

今思えば、あれが俺の……いや

俺達とこの世界の、ターニングポイントだつたんだつて思うよ

『待て！これ以上お前の好きにはさせないぞ……！』

『まさかあれほどの軍勢を退けるとはな……だが、手負いの貴様に我々を止められるか？』

『それでも…力を貸してくれた先輩たちのためにも…負けられない…!』

『ふん…少し遊んでやるか』

『俺は…ウルトラマンだ…!!』

「…………」

俺の名前は、日向創だ

希望ヶ峰学園に通う高校生…：つて、こんなところで見栄なんか張つても仕方ないよな
希望ヶ峰学園、と言つても分からない人もいると思うが、才能のある人が通う特殊な

学校：そんな感じの認識でいい

才能のある人が通うと言つただけあって、そこにいる生徒はみんな何かしらの才能を持つている。メカニックに料理人や写真家、中には本物の王女とかもいるらしいな……けど、俺にはそんな才能はない。その辺にいる才能のない一般人、そんな認識で何も問題ないようなツマラナイ人間

でも、才能への憧れは誰にも負けないつもりだ

そんな俺が所属してるのは希望ヶ峰学園”予備学科”

同じ希望ヶ峰学園だが、才能のない人間でも金さえ払えば入れてくれるという制度だ何をやってるんだという自覚はある。それでも、希望ヶ峰学園の一員になれるという夢のような制度に俺は飛び付いた……

まあ、それでも俺は訳アリなんだが…そんなのはどうでもいいだろう

『才能がないってことは、何にでもなれる…ってことじゃないかな?』

そんな声をかけてくれた女の子がいて、前ほどの才能への固執は無くなつた…とは思

うが、やつぱり…

「俺にも……才能があつたらな……」

そう簡単には、変われないみたいだな…

「…………？」

なんだ…？山から突然光の柱…？いや、それも気になるが…

「なんで…他の人は騒がないんだ…？」

俺がいるのは希望ヶ峰学園の敷地内。そこから見える山は結構目立ち、あの柱も見るはず。こんなことが起こつたら当然騒いでもおかしくないんだが……：

「…………俺だけにしか見えないのか……？」

そんな漫画みたいなことが現実に起ころのか、そんな疑問しか沸かない事態。ほとんどの人が幻覚と思うだろう

「…………」

けど、俺はその光に惹かれるかの様に、山へと足を進めた

「が…………あ…………」

身体中に痛みが走り、動かない。変身が解けた俺は、地面の上で仰向けになつてている
ここは……山の中か……？ 地球に落ちたのか……？

「…………あ…………」

アイツに敗れた俺の身体はボロボロで、恐らくまともに変身も出来ないだろう

いや……それよりも問題なのが、アイツらを自由のままにさせていること。アイツらの情報を掴み、追っていたのは俺だけ。先輩達にもこのことが伝わるとは思うが、駆け付けるには時間も掛かるだろう……その間にアイツらを自由にさせておいたら間違いなく……

「たしかこの辺りだつたよな……」

……ツ!?誰かが来る……この声の感じは……

「つて、えつ!?なんでこんなところに人が……!しかも傷だらけで!?大丈夫ですか!?」

やはり高校生ぐらいの少年……俺を心配してくれてると駆け寄ってくる

「すま……ない……」

「えつ……？」

これからのことにしてこの少年を巻き込んでしまうことへの謝罪を呟きながら、俺の身体は光と化す

何が起こったのか理解できない俺はさつきまで傷だらけの男がいたところで佇む。
いや、本当に何が起こった。とりあえずまとめてみよう

1：光の柱みたいなのが見えたから山へと向かう

まずこの時点でおかしいがそこは目をつぶろう。次

2：柱があつたと思われるところへ向かつたら傷だらけの男が倒れてた

これもおかしいが1よりはまだ現実味がある。日常的には起こり得ないとと思うが普通に心配だつたから駆け寄つた。そして次

3：その男が光になつて俺の中へ入つた

訳が分からぬ。1、2なんか比じやない。訳が分からぬ

だつて考えてみてほしい。傷だらけの人人がいたと思つて駆け付けてみたらキラキラした光になつたんだぞ？

訳が分からぬすぎて崩壊してゐるが逆になんか冷静になつてゐる。崩壊しながら冷静つ

てなんだこれ

しかもこうなる前にその人すまないって謝つてたと思うんだけどそれって俺にだつたのか？だとすると何に対してだ？誰に対してものは大体分かるが何に対してなんだそれは

『これからのことに対する巻き込んでしまうことへ…だ』

ああそなのか…これからのことに対する巻き込んでしまうことへか…つてからのことつてなんだよ。もつと具体的に言つてくれないとつてちょっと待て！？

「えっ!?さつきの人?!どこから!？」

さつきの僅かに聞こえた男の声がどこからか聞こえたぞ！？なんだこれ!!どこから聞

こえるんだ!?

『ああ…お前の中からだ。俺の名前はクレナイ・ガイ・風来坊だ。無断ですまないがお前の中に居候させてもらつた』

「お、俺の中!俺の中に風来坊が居候!?つて耳を塞いでも声が聞こえるぞ!」

『そういうことだ…さつき見た通り俺の身体はボロボロでお前の身体に入らせてもらつた…』

「は、はあ…身体がボロボロだったから…俺の身体に…」

さつきも思つたけど人間つて本当に訳が分からぬことが起ると比較的冷静になれるんだな。取り乱してはいるけどそれでも比較的冷静だ。人間つてスゴいな

「いや、それよりもこれからのことには巻き込むってどういうことなんですか……？」

『…………侵略者と闘うこと……だ』

「……………はい？」

侵略者？侵略者ってなんだ？

『俺は侵略者達を追つてこの宇宙へやつて来たが、奴に敗れてしまいボロボロになつて変身能力をほぼ失つてしまつた。だが嘗ての先輩達のように人と一体化することで変身することが可能になる……俺も初めてやることだが……上手くいったか』

「いや…………あの…………」

いやちよつと待つてくれ。流石にここら辺からずば抜けて訳が分からなくなってきた。この宇宙？変身能力？先輩？けどどうやらクレナイ・ガイという男と俺が一体化したらいいってところだけは理解できたぞ。理解できただけ理解できてないぞこれなんだこれ何が起こってるんだ

『ああ、心配しないでくれ。変身してもお前の身体に負担がかかる事はない。居候させてもらつている俺だけ負担がかかることになる』

「えつと…俺の名前は日向創…です……」

いやおかしいだろ俺なんで自己紹介なんかしてんだ。えつ、変身しても俺はほとんど負担がかからないってなに？ちよつと待つてくれ一回冷静になる時間をくれ

『…………悪い、少し移動しよう。どこか落ち着けるところへ行かないか』

「えつ。あつ、はい」

どうやら冷静になる時間をくれたらしい。あとこの一連の流れで理解できたことは

⋮

”俺の中に居候が増えたということ”

さて、どこからどうやって冷静になろうか